

Chubu University Charity Concert

第二回
2005

中部大学 音楽祭



中部大学マンドリンクラブ
中部大学ナチュラルサウンズ・ジャズ・オーケストラ
中部大学混声合唱団
中部大学シンフォニックバンド
中部大学管弦楽団
中部大学音楽祭オーケストラ・合唱団
賛助出演：春日井市交響楽団／春日井第九合唱団
指揮：アレキサンダー・ドゥルチャー
独唱：久保かしづ／牧野真由美／川野名康夫／
アルベルト・ペーゼンドルファー

第一部
中部大学青春の響き

第二部
「歓喜の合唱」
ベートーヴェン作曲
「交響曲第九番」第4楽章

12/10 Sat
(土)

開場／14:15 開演／15:00

愛知県芸術劇場コンサートホール

●地下鉄東山線・名城線「栄」駅下車、東へ徒歩2分(オアシス21から地下
連絡通路または2F連絡橋経由)
●名鉄瀬戸線「栄町」駅下車、徒歩2分

入場券取扱場所：渉外部

入場料：一般1000円／学生500円(学生・生徒)
(入場券売上金は、社会福祉法人中日新聞社会事業団・NHK厚生文化事業団への寄付金とさせていただきます。)

主催：中部大学

【後援】愛知県・春日井市・春日井市教育委員会・(財)かすが市民文化財団・NHK名古屋放送局
NHK厚生文化事業団・中日新聞社・中日新聞社会事業団・中部大学後援会・中部大学同窓会
中部大学幸友会【協力】春日井市交響楽団・春日井第九合唱団 【協賛】(有)中部大学サービス

お問い合わせ：中部大学 渉外部 (0568) 51-1111
ホームページ <http://www.chubu.ac.jp/>

pia.jp/t

電子チケット
ぴあ

Tel.0570-02-9999(コード:211-201)

URL:<http://pia.jp/t/chubu/>

お近くのチケットぴあスポット、ファミリーマート、サンクス、
セブンイレブンでも直接お問い合わせいただけます。

0570-02-9999

チャリティ・コンサートの喜び

中部大学 音楽祭実行委員長
三浦 昌夫 (中部大学学監)



中部大学は、大学をあげて、年末にチャリティ・コンサートを開くのを大きな喜びといたしております。この冬にもまた、大学の学生たちの音楽クラブを中心に、春日井市の春日井第九合唱団と春日井市交響楽団のご協力をえて、第2回中部大学音楽祭を愛知芸術劇場コンサート・ホールで開くことになりました。

チャリティ・コンサートの喜びは、音楽を聞く喜びだけではなく、感動的な音楽を聴いて自分の幸せを思い、他人(ひと)の幸せを願う — その優しい人間的な心を私たちに思い出させてくれることにあります。

第2部の「第九」には、今回もまた、国内外から優れた指揮者とソリストをお招きしました。さらに充実した、芸術性の高い演奏会になるものと存じます。若者たちの未来の音楽と人類愛の理想を歌う「第九」を聴きながら、みなさまと一緒に、世界中が幸せな年を迎えることが出来るよう、なにかしかの努力と貢献をいたしたいと存じます。ぜひ、ご参加の上、ご協力をお願いいたします。

第一部

中部大学青春の響き ～中部大学の音楽クラブによる演奏～

◎ 中部大学ナチュラルサウンズ・ジャズ・オーケストラ

THE HEAT'S ON 作曲:Count Basie
US 作曲:Thad John's
OBATALA 作曲:中路 英明

◎ 中部大学マンドリンクラブ

パールギュント第一組曲より 朝
作曲:グリーグ
シンフォニア 作曲:マネンテ
以上編曲:中野二郎

◎ 中部大学混声合唱団

[優しき歌] 作曲:小林秀雄 作詞:立原道造
1. 爽やかな五月に 2. さびしき野辺 3. また落葉林で 4. また屋に

◎ 中部大学シンフォニックバンド

カーペンターズ・フォーエバー
SF交響ファンタジー1番 作曲:伊福部昭 編曲:福田 滋

◎ 中部大学管弦楽団

カルメン幻想曲op.25 作曲:パブロ・デ・サラサーテ
「アルルの女」第2組曲から「ファランドール」
作曲:ジョルジュ・ビゼー

第二部

歓喜の合唱 ～ベートーヴェン作曲「交響曲第九番」第4楽章～

◎ 中部大学音楽祭オーケストラ・合唱団

◎ 賛助出演：春日井市交響楽団／春日井第九合唱団

指揮:アレクサンダー・ドゥルチャー

独唱:久保かしづ／牧野真由美／川野名康夫／アルベルト・ペーゼンドルファー

指揮:アレクサンダー・ドゥルチャー
Alexander Drcar

ソプラノ:久保かしづ
Kubo Kashizu

アルト: 牧野真由美
Makino Mayumi

テノール:川野名康夫
Kawanona Yasuo

バス:アルベルト・ペーゼンドルファー
Albert Pesendorfer



いま、ヨーロッパのオペラやコンサートでもっとも活躍中の実力派ベテラン指揮者。1966年ミュンヘン生まれ。1992年にウィーン音楽大学の大学院で指揮のディプロマ(資格証明)を取り、オーストリア教育省から名誉賞を受けました。大学では、指揮をカール・エスターライヒヤーに、作曲をトーマス・クリスチアン・グヴィットに、コンサートピアノをソエル・フローレスに学びました。ハラルド・ゲッツの下でオペラ指導者(コレベイトウアー)としての研鑽を積みました。1995年以来、クラゲンフルト(オーストリアのケルンテン州の首都)の準音楽監督をはじめとして、ハンブルクやマイニンゲンやミュンヘンやバルセロナの歌劇場を中心に、モーツァルト(《フィガロの結婚》・《コシ・ファン・トゥッテ》)からベルク(《ルル》)まで、幅広いレパートリーを高度の演奏で聴かせて、劇場の内外で多くのファンを集めています。1997年以來、春日井市の「第九演奏会」の指揮者として数度来日。愛環音楽連盟との関係も深く、「歌劇《こうもり》:オルロフスキー 邸へようこそ」(1999)や「千人の第九」(2000)でも指揮をつとめました。2005年の2月にも来日して、愛知芸術センタープロデュース「プレ 愛知万博:青髭城の扉」を指揮して絶賛をえて、愛知万博の秋の愛知県ウィークのオープニングで「愛・地球の環音楽祭」の「第九」を指揮しました。

武蔵野音楽大学卒業。東京音楽大学研究科(現在音楽院)オペラコース終了。その後同大学オペラコース助手を務めました。第29回滝廉太郎記念音楽祭声部日本高等学校校独唱コンクールで最優秀賞。長崎県の「第九」演奏会のソリストをはじめ、東京・福岡・北九州・長崎を中心としたソノリサیتالやオーケストラとの協演など多くの演奏会に出演しています。《椿姫》の主役などオペラでの活躍はめざましく、最近では「第19回国民文化祭ふくおか2004」のオペラ《仮面舞踏会》でピエール・ジョルジュ・モランディの指揮により主役のアメーリアを歌い好評を博しました。二期会会員。

東京芸術大学音楽学部声楽科卒業。同大学院修士課程修了。小中はるみ(中部大学小中陽太郎客員教授夫人)、加藤綾子、青木美穂子の各氏に師事。モーツァルトの「レクイエム」、ベートーヴェンの「第九」、マラーの「復活」、ヴェルディ「レクイエム」などでソロを歌っています。ドイツ・リート中心のリサイタルも開き、オペラでは、「カルメン」の主役、《フィガロの結婚》のケルビーノやマルチェリーナ、《アドリアーナ・ルクブルール》のアイオン公妃、《リゴレット》のマッダレーナを得意としています。第3回藤沢オペラ・コンクールで奨励賞、第30回イタリア音楽コンクールで金賞。実力派のアルト歌手です。

1972年東京生まれ。東京芸術大学音楽学部声楽科卒業。卒業後、イタリア ジェノヴァのニコロ・パガニーニ国立音楽院にて研鑽を積む。イタリアやスイスの各地で、ロッシーニ作曲「Petite Messe Solennelle(荘厳小ミサ曲)」のテノールソロとして出演。南イタリア・フォッジャのジョルダノ・フェスティバルにて、「アントレア・シェニエ」に出演。サンタマルゲリータ・サマー・オペラ・フェスティバルの「愛の妙薬」(ドニゼッティ作曲)で、主人公ネモリーノ、「椿姫」アルフレードで出演。2004年ドイツ・オーストリア・イギリス・オランダなどをまわるヨーロッパツアーに「蝶々夫人」のGOROで出演。その歌唱力・演技力で絶賛を受ける。その他「トスカ」、「ボエーム」、「トゥーランドット」、ベートーベン「第九」など、国内外で活躍している歌手たちによるガラ・コンサートなどイタリア・日本を中心に活躍の幅を広げている。中部大学音楽祭には昨年に引き続き出演。

オーストリア生まれの若きバス歌手。リンツのブルクナー音楽院で学ぶ。ウィーンでフルタムアーに師事。リンツ州立歌劇場やウィーン芸術家歌劇場と契約。低い、深みのあるバスが持ち役で、モーツァルトの歌劇「後宮よりの誘拐」のオスミン、「ドン・ジョヴァンニ」のレポレロ、「魔笛」のザラストロ、アリア、(ヒェルト・シユトラウスの「薔薇の騎士」)のオックス男爵、ワグナーの楽劇《ニュルンベルクのマイスター・ジンガー》のハンス・ザックスを得意としています。ベートーヴェンの「第九」でも、ペーゼンドルファーが出す最低音のバスの響きは聞きものです。初来日。